

感謝の会・懇親会

ボランティア感謝の会・懇親会

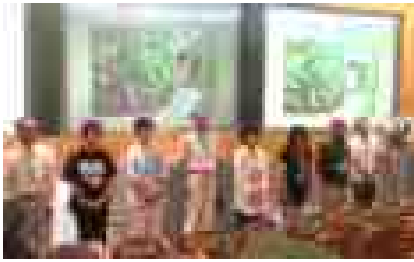


8月27日(日)、ボランティア感謝の会が映像ホールで行われました。年間24回以上で3年間ボランティア活動をされた方が、今年は8人表彰されました。関口園長から感謝状と記念品の写真入り盾が一人ずつ手渡されました。

表彰式の後、恒例になっている矢島名誉園長の「おもしろ講座」が行われました。昨年ロシアのモスクワ動物園からアジアでただ一人招待された、無脊椎動物学会に参加されたときのエピソードを話していただきました。日本国内では無脊椎動物を一括りにした学会がないことや、クモだけを展示している世界でも珍しい「クモの家」を見学したことなどが紹介されました。

感謝の会終了後、職員12名・ボランティア41名が参加して、2階クラフトコーナーで懇親会が行われました。ゲーム大会ではクラフトメニューのカマキリハンティングを、企画展にちなんで名付けられたクモハンティングに変更して、6チームに分かれて得点を競い合いました。みな童心に返り真剣にゲームに取り組んでいました。ゲーム終了後、園から支給されたお弁当を頂きながらボランティア写真クラブの活動紹介と鳥居さんの紙芝居を鑑賞しました。写真クラブでは、会員5名のそれぞれ特色のある写真を、撮影者本人による撮影時の解説付きで紹介してもらいました。11月に行われるステップアップ講座で使えるような安価な撮影機材や撮影技法も簡単に解説してくれました。続いて「沼田城の小松姫」の紙芝居を鑑賞しました。鳥居さんの語り調子に参加者は引き込まれながら見ていました。

食事の後、ゲーム大会の表彰式が行われ上位3チームに豪華景品が贈呈され、大盛況で懇親会が終了しました。



表彰されたボランティアの方たち



ゲームや紙芝居で盛り上がり、楽しいひとときを過ごすことができました

ステップアップ研修

里山解説基礎研修

10月7日、ボランティアの高橋文吾さんを講師に里山解説基礎研修が行われました。今回は「アカトンボの見分け方」というテーマでした。

この時期によく見られるアカトンボですが、「アカトンボ」という名のトンボがいるわけではなく、体が赤くなるトンボの総称だそうです。その中でもアカネ属を主にアカトンボといい、昆虫の森では今までに10種類確認しているそうです。

まずは映像ホールにてスクリーンを見ながら昆虫の森で見られるアカネ属の見分け方を、早見表を使って特徴を交えて教えていただきました。最初に翅の模様、次に胸の模様をみれば見分けられるとのことでした。室内研修が終わった頃、それまで降っていた雨が嘘のようにあがり晴れ間も出てきたので、座学の後はいよいよ外に出てアカトンボを捕まえながら実習となりました。

一人一人が捕虫網を持ち、アカトンボの見分け方の早見表を片手に捕まえたトンボの種類を調べ、わかったところで講師の高橋さんにあるか確認してもらいます。多くのトンボを捕まえるうちにトンボをうまく捕まえられるようになっただけでなく、ほとんどの人がアカトンボを見分けられるようになりました。今回見られたアカトンボはアキアカネ、ナツアカネ、コノシメトンボ、マユタテアカネ、ネキトンボの5種類でした。



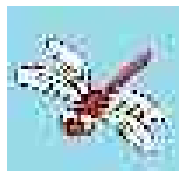
採れたアカトンボの名前は？



雨もあがって外へ



座学でみっちり勉強



他施設観察研修「パラダ昆虫館」

昆虫の森に8時20分に集合し、群馬県所有のバスにて総勢25名、一路佐久平へ出発しました。バスの中では各人の自己紹介やら引率の井熊さんの長野県に關連するクイズ等々楽しいひとときがありました。車窓からは浅間山が間近に迫り、どこまでも続くかと思える稜線が前方にあり、眼を左に向ければ遠く八ヶ岳の雲海が広がっていました。今日訪れる佐久平昆虫館「パラダ」はこの雄大な景観の平尾山南面に築かれており、いくつもの体験ができるブロックに分かれています。セラピーロード、スーパースライダー、アスレチック広場、そして本館の昆虫体験学習館からなっています。私たちは、到着後「パラダ」の館長金子さんの引率により、昆虫探検とカブトムシドームに案内していただきました。今日は、自分たちが主役ですので、平尾山に生息する昆虫たちを思う存分採集しました。

昼食も昆虫体験学習館の隣で、なんと日帰り温泉施設と一緒にありました。午後はネイチャークラフトで、参加者は時間の許す限り物作りに没頭しましたが、できたものは説明を聞かなければ何だか分からない代物になったという人もいました。

時間の過ぎるのは早く、あっという間の他施設観察研修でしたが、楽しいひとときを過ごし、無事に昆虫の森に帰ってきました。



ネイチャークラフトに没頭



楽しい昼食の時間



平尾山の昆虫採集



群馬県民の日イベント

恒例となった県民の日のイベント、今年は10月28日が土曜日になったので多くの方が来場されるだろうと準備を進めていましたが、天候不順が多い今年を象徴するかのような曇りのち雨の予報。それでも9時からの全体打ち合わせの後、ボランティア31名と職員の方々はそれぞれの配置につき、イベントの準備に取りかかりました。

10時を回ると、お客様があちこちで並び始めました。ふかし芋や豚汁のサービスは雨に備えてフィールドステーションⅡでした。11時からの予定なのに早くもお客様がちらほらと様子見に見えていました。

早々とイベントが始まったのはひょうたん絵付けです。午前の部はお客様で満席になり、午後とあわせて211名の方々に楽しんでもらえました。そのお客様が一齐に豚汁・ふかし芋の方に移動し、周辺は人だかりに。どちらも300食の予定でしたが、350食以上が飛ぶようにさばられました。また、人気のさつま芋掘りでは、あちこちで大きな芋を掘り当てて歓声が上がりました。バッタの広場で行われた秋の虫探しは、やや出足は遅かったものの、お客様がじっくり取り組んで昆虫カードをゲットしていました。

本館では、石階段下でハチミツ絞りが行われ、昨年より多くのハチミツが採れました。クラフトは飛ぶチョウで、お客様は途絶えることなく取り組んでいました。また、クワガタぐんまちゃんも200人以上のお客様に喜んでもらえ、おもしろ講座もたくさんのお客様が参加されていました。

残念ながら天気予報の通りに昼過ぎから雨が降り出し、昼からのイベントは一部中止に。天候不順の中、最終的に来場されたお客様は162人となりました。尚、豊作だった落花生は掘り残したので、11月5日に91名のかたが追加で楽しみました。



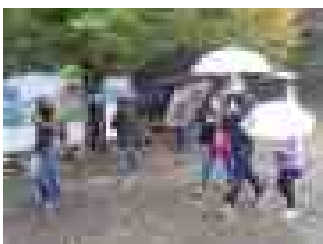
芋掘りは豊作？



ふかし芋のサービス



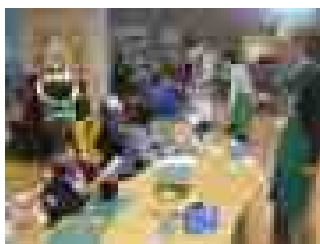
じっくり取り組んだ秋の虫探し



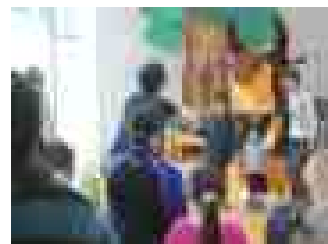
今年も午後から雨



ハチミツ絞り・がんばれ！



クラフトは飛ぶチョウ



クワガタぐんまちゃんは大人気

虫の絵作品展（連結・展示作業）

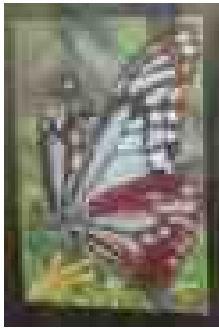
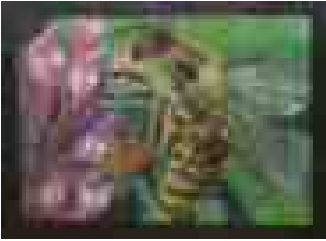
第12回ぐんま昆虫の森「虫の絵」作品展が11月3日から12月24日にかけて開催されています。今年度の作品展のテーマは「身のまわりにいる虫をよく見て描いた作品」そして「虫との出会い、ふれあいを描いた作品」で、県内281校の小学校および特別支援小学校から計二五、八六三点の応募があり、その中から各学校で選出された169点を昆虫観察館に展示しています。

その中から金賞3点、銀賞3点、銅賞6点、審査員特別賞2点の計14点が入賞作品として選ばれ、11月12日に行われた表彰式には受賞者13名とそのご家族など総勢56人の方が参加されました。

金賞に輝いたのは、絵の具とクレヨンを使って夜のカブトムシとクワガタが戦っている様子を描いた群馬大学教育学部附属小学校一年高橋堅音さんの「よるのけっせん」、花の蜜を吸うミツバチがリアルに全面に描かれているぐんま国際アカデミー初等部四年三井隆雅さんの「ぼくの家の花のブンブンみつばち」、本物と全く同じように見えるアサギ色の翅をはっきり描いた前橋市立城東小学校六年茂木俊輔さんの「海を渡れ！アサギマダラ」でした。

講評の中で園長から「14点の入賞作品はどれも力作ばかりで、本当はどれも金賞にしたいくらいだった。今年のテーマの観点、虫をよく観察していること、丁寧に細かく書いていること、虫に愛情を持っていることがポイントとなった」とお話がありました。

この作品展に先立って、ボランティアも協力しての絵の連結作業、展示作業にはかなりの労力を要しましたが、出来上がった展示を見ると本当に素晴らしいな、と感じました。どれも素敵な作品ばかりですので、じっくり鑑賞してみてください。



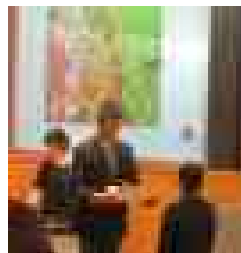
金賞作品の三点、上から「よるのけっせん」「ぼくの家の花のブンブンみつばち」と右は「海を渡れ！アサギマダラ」



作品の展示作業



入賞者の記念撮影



入賞者の表彰



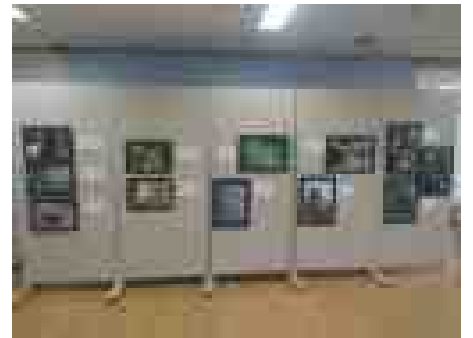
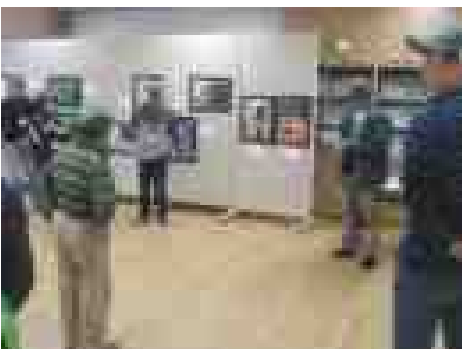
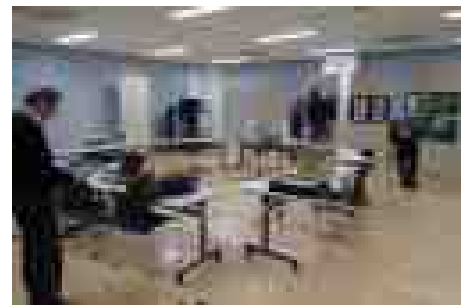
写真クラブのコーナー

出張ぐんま昆虫の森にて写真展

前橋市児童文化センターで、ぐんま昆虫の森のイベント（11月18・19日実施）が行われた際に、写真クラブの写真を展示してもらいました。

なんだかんだで今年は4回も写真展をやります。次回は12月8日～10日までみどり市笠懸公民館にて開催します。ぜひ見に来てください！

右の写真2枚は前橋市児童文化センターイベントの前日の準備の様子です。



（編集委員追記）前橋市児童文化センターのイベントに参加して、左から2枚の写真を撮りました。左は朝の点呼、その右は読み聞かせ（紙芝居）の時の写真ですが、会場全体に素晴らしい写真がちりばめられているのが良くわかったと思います。昆虫たちの一瞬をとらえた興味深い写真はイベントを大いに盛り上げていました。

(その1)

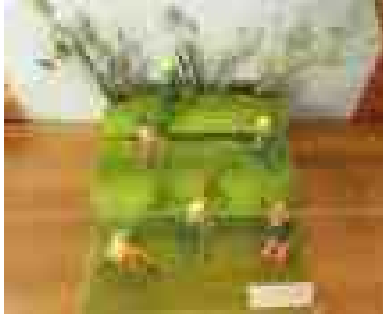
2017年学校対応について

本年も野外ポイント解説やクラフトに、たくさんのボランティアが奮闘しました。本年の予約数は446団体27,438人で、昨年度とほぼ同数、実際に来園したのは387団体23,090人で、昨年より多い人数となりました。予約数と実数との差は、雨天時のみの来園予約団体が相当数に上るためです。幸か不幸か、本年度は特に10月後半は雨の日が多く、雨天時来園予約団体のキャンセルが少なかったため、実来園数が昨年度より多くなったと思われます。野外ポイント解説は週3日(火、水、金曜日)に3つのポイント(草地と畑ポイント、水辺ポイント、林間ポイント)に分かれて解説しますので、それなりの人数が必要になります。クラフトは週4日(火、水、木、金曜日)、小学校に加えて幼・保にも対応し、さらに、雨天時のみに来園する団体もクラフトを希望することもあるので野外解説に比べ実施日数は多く、また、多い日には午前午後合わせて20回に迫る回数を実施したこともありました。

(その3)

川田侑子さんのまゆクラフト展

みどり市童謡ふるさと館ロビーで10月21日～11月26日にかけて「押し花絵四季折々繭クラフト」展が行われ、ボランティアの川田侑子さんの繭クラフト作品が展示されました。「ギリギリのコンサート」や来年の干支、戌の新作もある「十二支のまゆクラフト」、「唱歌の金太郎、桃太郎、浦島太郎の歌にあわせて作った作品」が飾っており、「これ、まゆで作ったの?すごい!」と来観者にとっても好評でした。



(その2)

写真クラブ作品展



10月9日～29日まで昆虫の森3階フロアの壁面にボランティア写真クラブ会員6名の、28点、32枚の写真が展示されました。撮影者の個性が感じられる作品にお客様も見入っていました。12月8日～10日にかけてみどり市立笠懸公民館で開催される予定の第5回写真クラブ写真展が今から楽しみです。



(その4)

ボランティア養成研修受付開始

第17期生のぐんま昆虫の森ボランティア養成講座は11月1日～来年1月4日まで募集の受け付けを行っています。講座は来年1月14日の開講式を皮切りに3月11日の終了式まで、全6回の養成講座が行われます。今までとは違い募集の段階で自然・体験・飼育の部門別に分かれて講座を受講出来るようになりました。今年には9名が新たにボランティアに仲間に加わりましたが、来年は今年以上の仲間が増えるように、皆さんのお知り合いの方にもぜひ声をかけてみて下さい。



私とボランティアのかかわり

ぐんま昆虫の森と私

ボランティア4期生(K、Z)

大間々の町を抜け渋川方面へ、会社のライトバンで走っていたとき、ふと左側に続いている森の一角に「ぐんま昆虫の森(仮 予定地)」と書いて白い立て看板を見つけてしまったのです。

運命の出会い!でした。程なくボランティア募集を知り、開園前年(二〇〇四年)の4月から1年間、勤めのない日曜日に開催された月一度の研修に参加、楽しみながらボランティアの心得・知識を得ました。(残念ながら2回は会社の仕事都合で欠席でした。)研修期間を通じ、なんとか規定時間数の研修をクリアして、開園の年(二〇〇五年)の4月に4期生の一員として、晴れてボランティアのグリーン・ベスト&キャップを身に付けることができました。

既に、1期から3期までの先輩ボランティアがいるので、最初の年は、自然観察部門の新米として、午前中の里山歩きでは補助で参加し、先輩の活動ぶりを勉強しました。また午後の「ふれあいコーナー」の1時間、子供たちの笑顔が見られる楽しい時間でした。

しばらくして、初めて里山歩きのメインを任せられたときは、下見で確認したポイントをもれなく回るのに精いっぱい、夢中で解説、緊張の1時間でした。

当初会社勤めの為、ボランティア協力・参加は、会社休日の土日、主に日曜日を中心でした。ですから、平日の春と秋の学校対応はもちろん、「県民の日」のイベントにも、平日に当たる年には、協力参加できませんでした。昨年1月定年退職し、やっと昨年春から学校対応の協力・参加が可能となりました。

学校対応は昆虫の森の大切な役割の一つですし、学校対応のない平日の整備作業も大切です。これらに協力・参加できるように、先輩ボランティアに少し近づけたような気がしています。

